

【教授対談シリーズ】
Academy
こだわりアカデミー

● 本物の忍者は黒装束ではなかった!



三重大学人文学部教授

山田 雄司氏

Yuji Yamada

1967年静岡県生まれ。京都大学文学部卒業、筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻(日本文化研究学際カリキュラム)修了。日本学術振興会特別研究員。1999年三重大学人文学部講師に就任、2011年より現職の三重大学人文学部教授に就任。著書に「怨霊・怪異・伊勢神宮」(思文閣出版)、「忍者文芸研究読本」(編著・笠間書院)、伊賀忍者研究会編「忍者の教科書 新萬川集海1・2」(監修・笠間書院)など。

対談記事はweb版「こだわりアカデミー」でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載中。ジャンル別検索も可能です。

こだわりアカデミー
<http://athome-academy.jp/>



「にんじゃ」の呼称は昭和以降。彼らは有能な諜報員だった

国立大に「忍者学」が!!

忍者の実態や歴史を探り、

優れた知恵を現代に生かす!

——今回、国立大学が学問として

忍者を取り挙げていることを知り、非常に興味を引かれました。先生はなぜ忍者の研究を始めたのですか?

山田 そもそも私は、中世の信仰や怨霊についての研究が専門なのですが、たまたま2012年に三重大学の前学長が、県内の伊賀市との連携を打ち出し、忍者の研究をすることになったのです。そこで、どちらかといえば日本史でも正統派ではない、私にお鉢が回ってきたのです(笑)

——そういう経緯があったのですね。ところで、実際に研究を始めてみていかがですか?

山田 まず、忍者研究についていうと、これまでいわゆる愛好家が関連本を出すことなどはあったのですが、学術的には全く研究されていない分野だと

いうことがわかりました。しかも調べ始めてみると、これまで小説などのフィクションで描かれている忍者とは、全然違うことも分かってきて……。

——とおっしゃると?

山田 そもそも「にんじゃ」という呼称も昭和以降に使われるようになった



たもので、もともとは「しのびのもの」や「しのび」という名称でした。また、忍者が活躍したのは戦国時代ですが、彼らの役割は実は戦闘員というよりはプロの諜報員だったのです。敵を攪乱するために火術を使ったりすることもあったようですが、一番重要な仕事は、味方の大きな損害を防ぐために、敵の城に忍び込んだり、敵陣に紛れ込んだりして、兵糧の残り、城の構造、敵の人数などの情報を取って戻ってくることでした。そのため装束もわれわれが一般にイメージしているような黒装束ではなく、農民や武士などに紛れても目立たない柿色や紺の衣装を身につけていたとされています。

——私たちがテレビや映画で見ている忍者のイメージと本物の忍者の姿はかなりかけ離れているんですね。でも情報機器のない時代の諜報のプロとなると……どんな能力を持っている人たちだったのですか?

山田 忍者に必要とされている大事な能力は3つあります。まず臨機応変にさまざまなことに対応する能力

としての「知恵」です。次に情報を記憶する「記憶力」。そして最後に、人から上手にいろいろな情報を聞き出す「コミュニケーション能力」です。

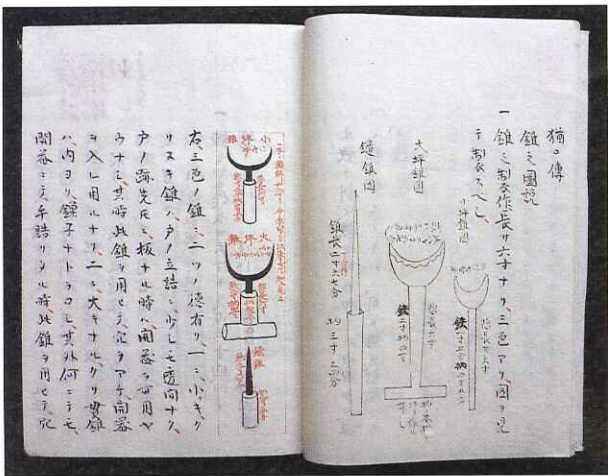
——どれも現代でも重要な能力ですね。忍者というのは、かなり有能な人たちの集団だったのでしょうか。

歴史の裏の主役だった忍者。多様な角度からアプローチ

——忍者の研究とひと口に言っても、具体的にはどのようなテーマがあるのですか？

山田 まず、先ほどお話ししたような「忍者とは何か」というテーマ。その他には、「歴史」「忍術」「時代による忍者観」「現代に生かせる忍術」など、主に5つの側面から研究しています。

「歴史」では、日本史における忍者の役割などを調べています。例えば1582年の本能寺の変の際、徳川家康が大阪の堺から本国三河に向けて逃避行をしたのですが、それに同行して家康を守ったのが伊賀・甲賀忍者だ



忍術書『萬川集海』。すべての川が一つの海に集まるの意。全22巻。忍術書の中ではもっとも完成されているもので、忍者のバイブル的存在とされる。伊賀流忍者博物館所蔵(写真提供:山田雄司氏)

と言われています。歴史の表に出てくることは少ないのですが、忍者はこのように歴史の中のさまざまな場面で重要な役割を果たしたことが、いくつもの文献から分かっています。

——忍者は、裏で日本の歴史を支えていた存在とも言えますね。

山田 そういう見方もできますね。

次の「忍術」ですが、江戸時代に編さんされた伊賀・甲賀の忍術を記した忍術書『萬川集海』を読み解いて、忍術とは何かを調べています。忍術書といっても、肉体的な強さの鍛錬というよりは、諜報活動の仕方や道具の使い方、忍びの心得など、幅広い内容が記されています。

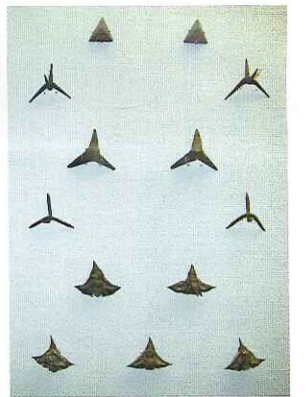
——忍者のバイブル的な存在といえますね。

山田 まさに。また、4番目に挙げた「時代による忍者観」では、江戸時代から現代までのさまざまな小説や芝居、映画や漫画などに出てくる忍者の研究をしています。こうしたフィクションの作品群にはその時代の特徴が反映されており、描かれた忍者観から、当時の社会の世相も見えてきます。

そして最後の「現代に生かせる忍術」は、忍術から得た知恵をこれからの現代社会を生かす知恵として役立つための研究です。文系だけでなく理系の観点からもアプローチしているんですよ。

——理系で忍者？ いったいどんなことを？

山田 体育学や生物資源学、医学など、さまざまな分野の先生に協力してもらっています。例えば、護身法にある「印を結ぶ」、「九字を切る」などの動作をすると脳波はどう変化するかを調べるといった研究もその一つで、こうした動作には、気持ち落ち着かせたり緊張しにくくさせるといった効能が



(写真左) 両刃のこぎりになっている刃物「鑿(しころ)」。正体がばれないように、一般的なものと同様の道具を使う場合が多い。(写真右) まきびし。逃げる途中にばら撒くことで追手に怪我を負わせたり、追手の速度を落とさせる効果がある。いずれも伊賀流忍者博物館所蔵(写真提供:山田雄司氏)

あるのではないかと考えているのです。また、忍者がトレーニングとして行った「ナンバ走り」(右手と右脚、左手と左脚を同時に出す走り方)を調べて、長距離・短距離走で役立てられないかと、忍者の携帯用の保存食「餓渴丸」「水渴丸」の成分を分析して、現代で生かせるか、といったことも試んでいます。

海外でも人気の「ninja」。忍者文化普及にも尽力

——忍者は研究対象としてもいろいろな要素があつて、とても面白いテーマですね。今後はどのような展開を考えていらっしゃるのでしょうか？

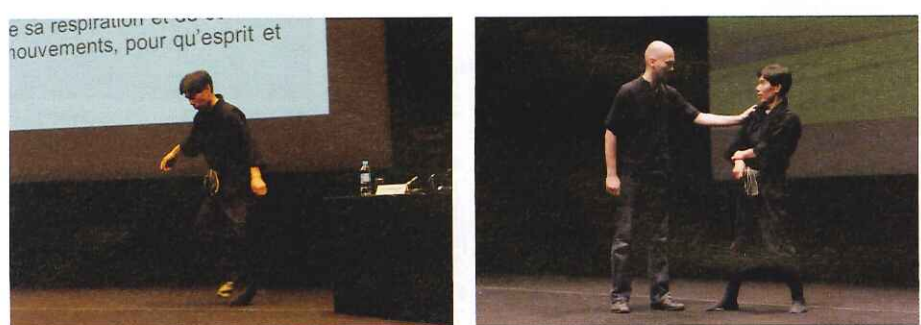
山田 日本はもとより、海外でも、研究で分かってきた正しい忍者像を普及していきたいですね。実は昨年はイギリス・スペイン、この7月にもフランスで忍者に関する講演をしました。9月末にはブルガリア、クロアチア、スロベニ

ア、ハンガリーを訪問する予定です。——海外での人気ぶりが伺えますね。海外では忍者はどのように捉えられているのでしょうか？

山田 外国で忍術を広めている方の活動や漫画やアニメの影響などから、「ninja」に超人的なイメージを持つている人が多いようです。忍術は、本来のイメージとは違うのですが、格闘技の一つとして人気がありますし、忍者の文化や歴史などについて詳しく知りたいという方もけっこういますね。

——スーパーヒーローとしての忍者のイメージも夢とロマンがあつていいですが、ぜひ先生に本物の忍者・忍術も広めていただきたいですね。

山田 はい。また、今後はこれまでに築いた外国の先生方とのネットワークで、



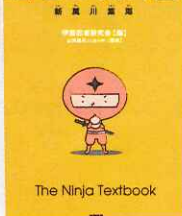
7月にフランスのパリで開催された「忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2015」でのひとコマ。三重大学社会連携特任教授の川上仁一氏が忍者の歩き方(写真左)、縄抜けや細い場所を通るための肩の関節はずし(写真右)などを実演(写真提供:山田雄司氏)

日本での国際シンポジウム開催なども考えています。加えて、10月に外国人観光客への情報発信を目的とした日本忍者協議会が設立され、来年には忍者に関する展覧会が予定されているなど、伊賀の周辺では観光やエンターテインメントの分野でも、忍者に関するさまざまな取り組みが始まっています。そうした活動にも関わりながら、忍者文化をさらに幅広く広めていきたいです。

——どんどん活動の幅が広がりますね。学問としての忍者研究第一忍者として、ますますのご活躍を願っています。

本日はありがとうございました。

忍者の教科書



「こだわりアカデミー」読者プレゼント

今月号の[こだわりアカデミー]にご登場の山田 雄司氏監修の「忍者の教科書 新萬川集海」(伊賀忍者研究会編・笠間書院)を、抽選で5名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、①氏名、②貴社名、③住所(送り先)、④電話番号、⑤書籍名、⑥本紙の簡単な感想をご記入の上、下記までご応募ください。

【宛先:「こだわりアカデミー」読者プレゼント係】

■FAX: 03-3580-7610 ■Eメール: talk@athome.co.jp

※2015年10月19日(月)到着分まで有効とし、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。応募者の個人情報は、抽選・商品の発送のみに利用します。